

予算・決算委員会（平成29年度予算審査）

歳入不足の厳しい予算

工藤 俱二雄

登別市簡易水道事業は、厳しい予算で事業を運営しています。平成29年度は9千900万円の繰入金がなければ運営できない状況です。今後の企業会計への移行も視野に入れ、予算に475万円の簡易水道事業適正化経費も計上されており、事業のあり方をたえました。

また、市民プール整備事業費では、床の張り替えやリラクゼーションプールの補修に係る施工業者や工期日程などをたえました。

キウシト湿原について

米田 登美子

質 キウシト湿原の保全や活用など、市が現在実施している事業内容と今後の考えは。

答 有識者やNPO法人キウシト湿原・登別と協力し、湿原保全のための調査などを行い、方針や作業計画を検討し、維持管理計画を作成した。今後は保全と活用を軸に、特に自然体験の学習指導方法の検討と、湿原や自然環境の重要性を普及、啓発できる人材育成に努めたい。

商工会議所青年部 第30回北海道ブロック大会補助金

成田 昭浩

大会の目的や詳細、補助金50万円の算定根拠、市としてのかかわりについて確認しました。市内経済への波及効果、本市の魅力発信、さまざまな交流など、まちの活性化の良い機会です。市としても協力体制、活動へのサポート、市民への周知に取り組みむべきとの姿勢をたえました。また、この機会を利用したアンケート調査の協力や市内経済への影響などを分析・検証するよう提言しました。

充分な理解と検討をした 予算案なのか

松山 哲男

市の職員は、各事業の目的などを十分に理解し、根本的・大局的な検討をして予算編成すべきとの視点から、①資質向上と人材育成に向けた職員研修内容②まちづくり基本条例を踏まえ、市民自治推進委員会を重視した取り組み③登別観光の方向性を示し、目的や役割を明確にした観光まちづくりを促進するためのDMO設置④ニーズ調査と対象者を踏まえた周遊コースの構築などを提起しました。

地域情報化、 成年後見支援について

二瓶 秀幸

地域情報化の推進について、ハード的な内容のみならず、行政事務の効率化を進めるためには、ICTなどのソフト開発や導入が不可欠と考えます。登別市の取り組みは不足していると考え、室蘭市の事例を紹介しながら本市のOA化推進の取り組みをたえました。

また成年後見支援センター事業は、室蘭市の支援センター任せではなく、本市でも独自に相談や啓発活動をするよう要望しました。

公園に高齢者健康づくりの 遊具設置を

渡辺 勉

増える医療費を抑えるための健康づくりについて質問しました。

市内の公園に設置されている遊具のほとんどは、子どもたちを対象としたものです。現状では、高齢者の健康づくりを目的とした遊具は、富岸公園など3カ所に設置されているのみです。

ラジオ体操など健康づくりで多くの市民が利用する公園に、高齢者向け遊具の設置をぜひ検討していただきたいと要望しました。

放課後児童クラブ 運営経費について

佐々木 久美子

質 平成29年度の申し込み状況は。

答 平成29年3月現在で、富岸児童クラブ67人、常盤児童クラブ25人、若草児童クラブ50人、青葉児童クラブ27人、幌別西児童クラブ29人、鷺別児童クラブ37人、登別児童クラブ17人。

質 富岸・若草・鷺別児童クラブの申し込み者数がほかが多い。全ての児童が入所でき、待機児童はいないのか。

答 全ての児童が入所でき、待機児童は発生しない見込みである。

東京オリパラに向けた 取り組みを

宮武 祥子

2020年東京オリパラまであと2年となり、本市では昨年引き続き、元オリンピック選手による講演や実践指導を計画しています。今後はパラリンピック種目にも着目し、オリパラに向けた取り組みを検討するよう求めました。

また、多くの市民に参加していただくことで、2020年以降もスポーツ振興につながる事業としていくよう要望しました。

※DMO…地域の観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と共同しながら戦略を策定・実施するための調整機能を備えた法人のこと。